

能登半島地震・奥能登豪雨からの 創造的復興

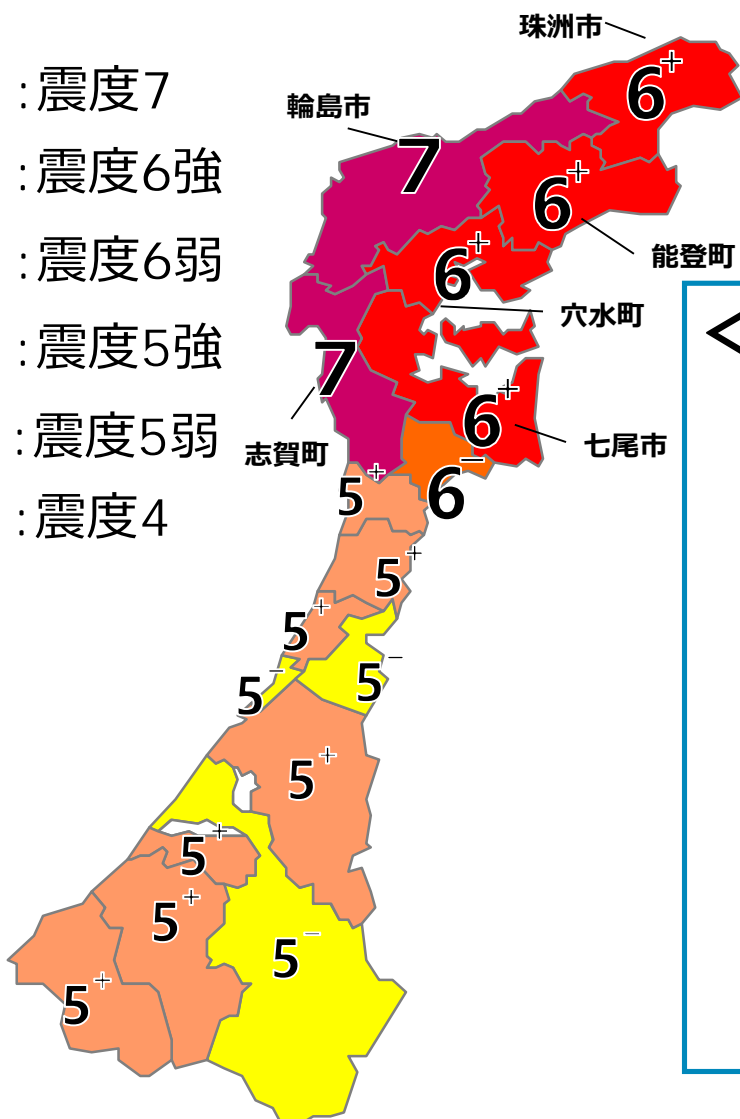
石川県知事 馳 浩

令和7年9月20日(土) 兵庫県「創造的復興サミット」

令和6年能登半島地震の状況



令和6年1月1日 午後4時10分 発生



<人的・住家被害の状況> R7.9.3時点

死者 643人

直接死 228人

→圧死(約4割)、窒息・呼吸不全(約2割)、
低体温症・凍死(約1割)など

災害関連死 415人

→環境変化による肉体的・精神的負担、既往症の悪化など

行方不明者 2人

負傷者 1,272人 (うち重傷 396人)

住家被害 116,372棟 (うち全壊 6,166棟)

令和6年能登半島地震による被害



のと里山海道 横田IC付近



鹿磯漁港 地盤隆起(輪島市)



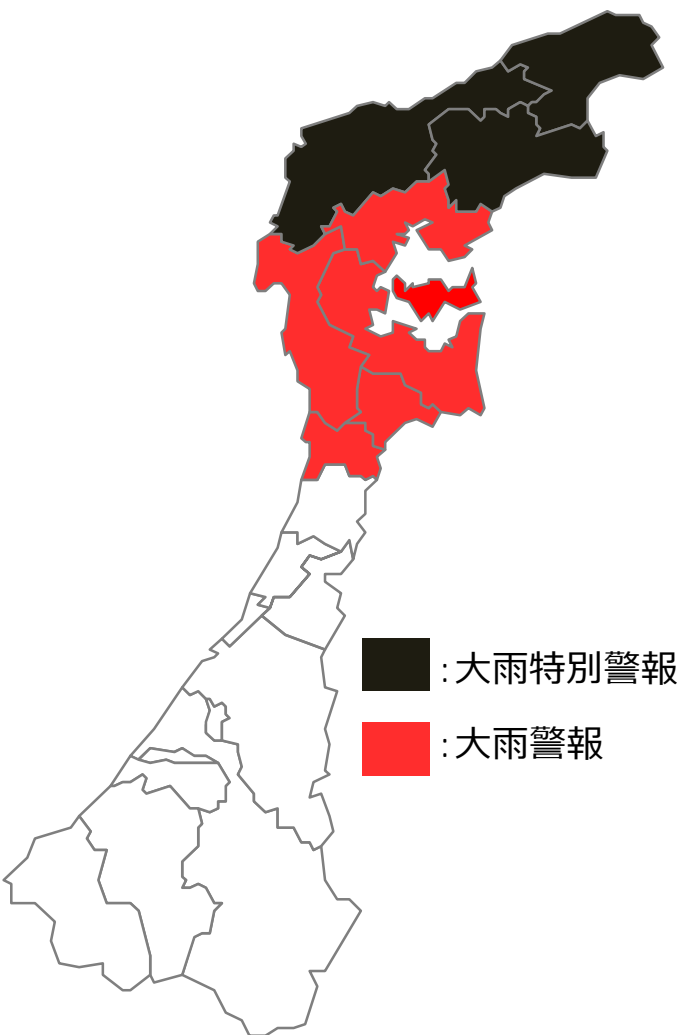
輪島朝市(輪島市 河井町地内)



液状化(内灘町 西荒屋地内)



令和6年奥能登豪雨の状況



令和6年9月21日

- ・ 輪島・珠洲で観測史上最大の降雨
- ・ 県内初となる大雨特別警報の発表

＜人的・住家被害の状況＞ R7.8.21時点

死者 19人

(水害による溺死、土砂災害による圧死など)

行方不明者 0人

負傷者 47人 (うち重傷 2人)

住家被害 1,901棟 (うち全壊 82棟)

令和6年奥能登豪雨による被害



輪島市(宅田第2仮設住宅周辺)



珠洲市大谷町



輪島市街地



輪島市町野町(田んぼへの土砂・流木堆積)



復旧・復興の進捗状況



住まいの再建

応急的な住まい

応急仮設住宅

〈みなし仮設〉



〈建設型〉



必要戸数 7,168戸
全戸完成済

入居者数

R7.8.1 時点
20,076 人

公営住宅 802人
みなし仮設 5,823人
建設型 13,451人

恒久的な住まい

自宅再建
(購入・修理)

民間賃貸住宅

復興公営住宅



道路の復旧

通行止め箇所（県管理道路）

【最大】

地震 42路線**87箇所**
豪雨 25路線**48箇所**

【現在】

7路線13箇所

※地すべりやトンネル崩落による大規模な被害が発生した4路線8箇所を除き、**年内の解消を目指す**

のと里山海道



現在



国道249号



隆起した海岸に整備された仮設道路

「石川県創造的復興プラン」の策定



- 令和6年6月、創造的復興の実現に向けた羅針盤として、**「石川県創造的復興プラン」を策定**
(期間：R6～R14) ←石川県成長戦略の終期
- 短期(2年後)、中期(5年後)、長期(9年後)の3期間に分けて、着実に取り組む

＜創造的復興のスローガン＞

能登が示す、ふるさとの未来
Noto, the future of country



創造的復興の象徴となる13の取組を
「創造的復興リーディングプロジェクト」と位置づけ



創造的復興リーディングプロジェクト 13の取組



取組 1 復興プロセスを活かした関係人口の拡大

取組 2 能登サテライトキャンパス構想の推進

取組 3 能登に誇りと愛着が持てるような「学び」の場づくり

取組 4 新たな視点に立ったインフラの強靱化

取組 5 自立・分散型エネルギーの活用など
グリーンイノベーションの推進

取組 6 のと里山空港の拠点機能の強化

取組 7 利用者目線に立った持続可能な地域公共交通

取組 8 奥能登版デジタルライフラインの構築

取組 9 能登の「祭り」の再興

取組10 震災遺構の地域資源化に向けた取り組み

取組11 能登半島国定公園のリ・デザイン

取組12 トキが舞う能登の実現

取組13 産学官が連携した復興に向けた取り組みの推進

【関係人口の拡大】



(写真) 石川県観光連盟



(写真) 能登高校提供



(写真) 石川県観光連盟
あばれ祭り(能登町)



隆起した漁港・海岸黒島漁港（輪島市）



能登が本州最後の生息地であるトキ

いしかわサテライトキャンパス

県内外の学生が地域との協働・交流を通じて課題解決等に取り組み、関係人口の創出を図る

R6年度

- 能登の被災地において、県内大学による復興活動への支援枠を拡大するとともに、災害ボランティア活動を中心に受け入れ
➡ **県全体で約 3 5 0 名の学生の活動を受入**



R7年度

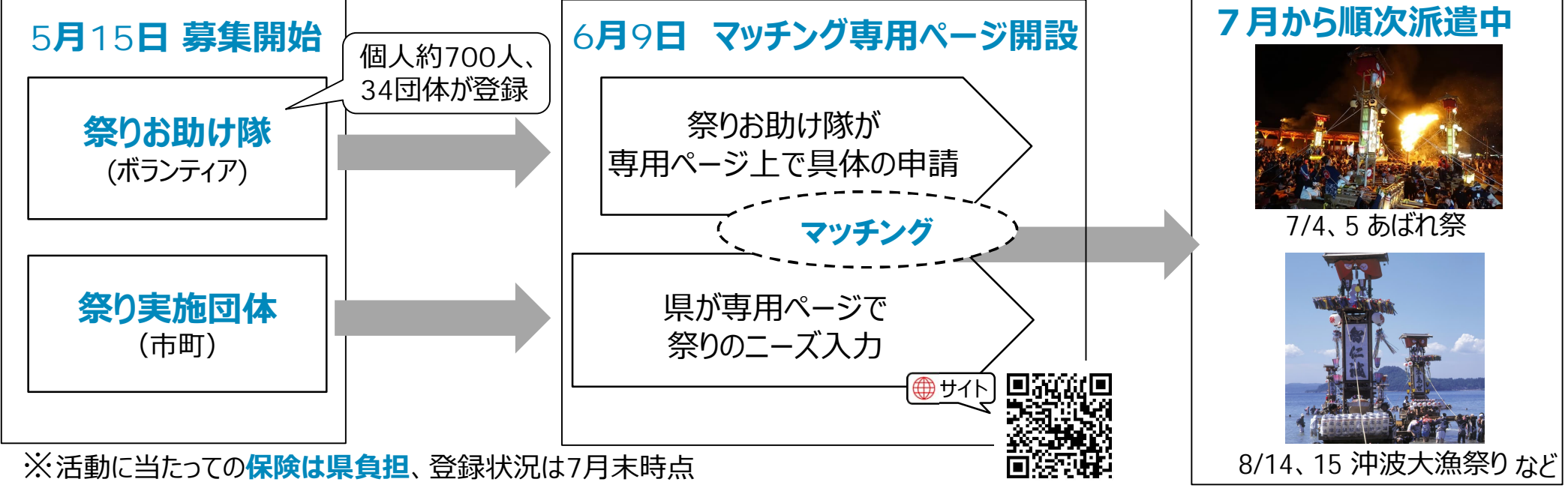
- 地域課題研究ゼミナール支援事業
➢ **R6.6創設の「復興課題枠」の対象を拡大**
- 「能登・祭りの環」支援事業
➢ **地元からの強い再開要望を受け、R7年度から事業再開**
- サテライトキャンパス推進事業
➢ **県全域で県内外の大学ゼミ等による単位認定も見据えたフィールドワークを実施**
➢ **単位認定も見据え、実施可能な研究プログラムを大学に提案しPR**

➡ **県内外の受入学生数の倍増（700名）を目指す**
（8月末時点で、59大学等から約720名参加見込）

「祭りお助け隊」の派遣



- R6は、能登に暮らす人々の絆である**祭りの再開を支援し、地域コミュニティを再建するため**、祭り用具の修繕・新調や資機材借上などの**経費(最大150万円)を助成**し、あばれ祭や石崎奉燈祭など、**能登全体の4分の1の祭りが開催**
- 一方で、「再開したいが、担い手が確保できず断念した」との声もあったことから、今年度は、キリコの担ぎ手や祭りの運営を補助するボランティア**「祭りお助け隊」**を創設し、**15の祭りに県内外から300名を超える方が参加**



トキ放鳥に向けた取り組みの推進

- 国が**令和8年6月頃**を目処に能登地域におけるトキ放鳥を決定
- 7月に放鳥地を**羽咋市南潟地区（邑知潟）**に決定

能登復興のシンボルとなるトキ放鳥に向けて万全を期す

能登地域でのトキ放鳥に向けた準備

放鳥で使用するケージ設置に向けた検討など

トキ定着に向けた体制づくり

トキのモニタリング体制の検討・構築、トキ観察マナーの普及啓発など

放鳥を見据えた気運醸成の加速化

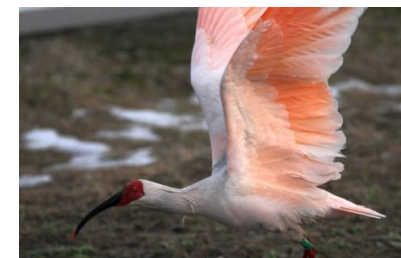
放鳥決定を記念したイベントなど

トキ放鳥を契機とした地域活性化

ロゴマーク・キャラクター、PR動画制作、米のブランド化に向けた検討など



放鳥ケージ



モニタリング



能登駅伝の復活について

スポーツの力で前に進もうとする能登の皆様の背中を押すような、
全国から人が集うスポーツイベントを開催し、能登の創造的復興を目指す

能登駅伝の復活

(S43年～52年に開催、高岡～珠洲～輪島～金沢の約350kmを2泊3日で走る)

新たな
能登駅伝が
目指す姿

能登の素晴らしさを国内外に発信し、
県内外の学生に復興の過程を知ってもらい、
学生と被災地の皆さんが交流する機会を創出し、
記録より記憶に残る大会 を目指す



- 昭和43年～52年に開催され、当時「箱根駅伝」や「伊勢駅伝」とともに、
学生三大駅伝の一つとされた。
- 現在、数年後の開催に向けて、陸上競技関係者や地元自治体からなるワーキング
グループを開催し、意見交換しながら、**基本計画案の策定**に着手